

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

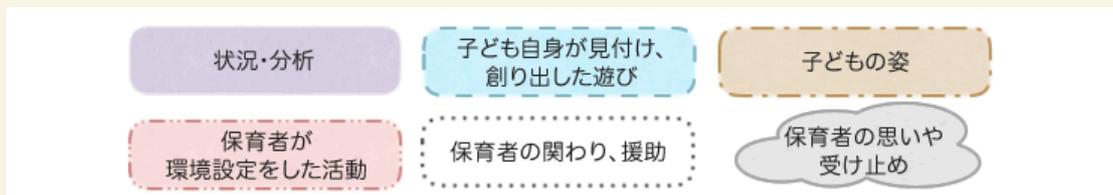
子どもの遊びと体験 [記録の工夫] / 出雲市立高松幼稚園 (島根県)

遊びを通して学び、感性や創造力が育まれている子どもたち。子どもたちが夢中になって遊ぶ姿を見取ってはいるものの、多様な遊びや子どもらしい発想による展開を書き表すことは容易ではありません。今回は、子どもたちが自発的に展開する「子ども自身が見付け、創り出した遊び」と、「保育者が環境設定をした活動」に注目し、遊びの展開を図にした事例をご紹介します。



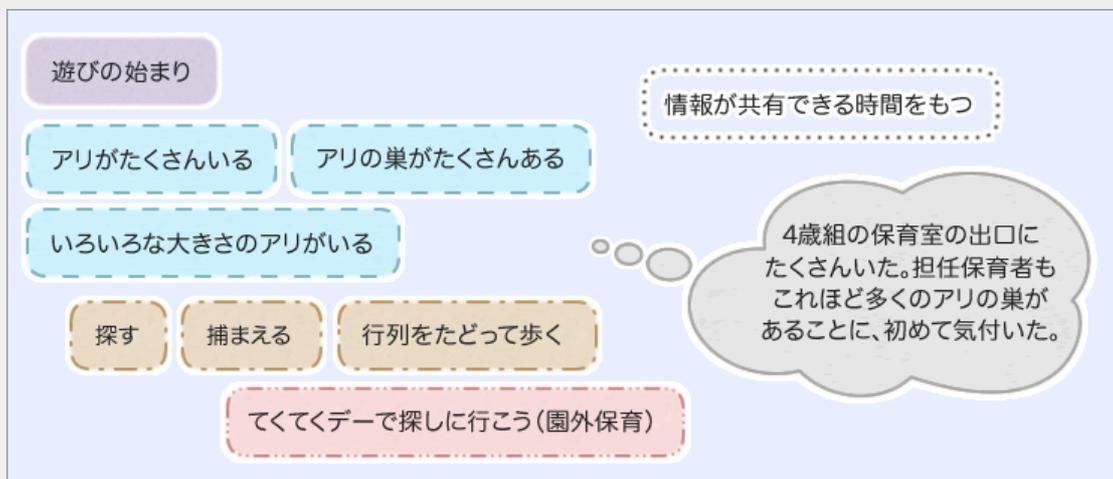
● アリと関わる子どもの姿と体験 / 4歳児

園庭での遊びを喜び、砂場での川作り、山作り、色水、ごちそう作りを楽しんでいる。ブランコや雲梯などの固定遊具、フープを使って遊ぶなど、体を動かす遊びも喜んでしている。その中に、ダンゴムシやアリなどを見付けて、動きを観察したり集めたりしている姿があり、保育者が工夫して記録する。



✦ 4月

アリに興味を示し、保育者が準備した図鑑や絵本でアリの巣を見付け、嬉しそうに保育者や友達に知らせる姿が見られる。



✦ 5月

アリの好きな食べ物では、自分の好きな食べ物を予想している。子どもたちの発想を大切にしつつ、担任自身も興味をもち一緒に確かめてみることにする。



✦ 6月

「アリの家（巣）を作ろう」と、保育室隣のプレイルームで大型段ボール、木製箱積木、梯子、平均台などを繋げて、アリの家（巣）作りをしている。初めは、その中で「忍者ごっこ」「お母さんごっこ」「お店ごっこ」など、いろいろなイメージをして遊んでいたが、細い段ボールをくぐったり、早く這ったりする動きが面白く、「アリ忍者だよ」と、忍者になる子どもが増えてきた。アリの家を繋げようと、家庭から段ボール箱を持ってくる子どももいる。「てくてくデー」で園外に出かけたり、園庭で遊んだりすることを通して、アリやダンゴムシ、草花など、園周辺の自然に親しむようになった。



